

日本学生支援機構

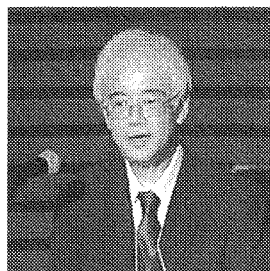
大学等の学生支援取組状況調査シンポジウム

日本学生支援機構は3月3日、「大学等における学生支援の取組状況に関する調査シンポジウム」を東京・江東区の東京国際交流館プラザ平成で開催した。

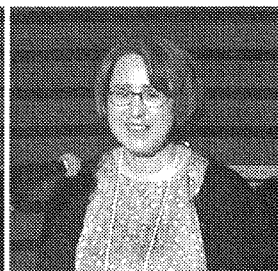
シンポジウムは「『空間』と『場』から学生支援を捉え直す―日本学生支援機構『大学等における学生支援の取組状況に関する調査』の分析から―」をテーマに設定。同機構が実施する調査協力者会議の研究者4名が分析報告とパネルディスカッションを通じて、各大学等における学生支援の取り組みに新た

な知見を提供した。

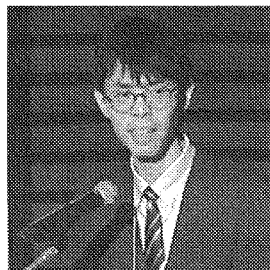
吉野利雄機構理事(当時)の開会あいさつに続き、早稲田大学文学学術院教授の沖清豪氏が趣旨説明を行い、名古屋大学高等教育研究センター准教授の安部有紀子氏から「ピア・サポート・課外活動から見える大学コミュニティ形成の可能性」、香川大学教育推進統合拠点大学教育基盤センター准教授の蝶慎一氏から「『空間』と『場』が交差する生活支援(学生寮)と学生対応の状況から考える」、福岡大学教育開発支援機構教授の橋場



早稲田大学の沖教授



名古屋大学の安部准教授



香川大学の蝶准教授



福岡大学の橋場教授

論氏から「岐路に立つ大学と学生支援組織―コロナ禍の経験はどのような受け止められたのか?―」について、それぞれ分析報告が行われた。パネルディスカッションでは、沖氏がモデレーターを務め、分析報告を行った3名のパネリストが参加者からの質問に回答するなど、日頃の取り組みを盛り込んだ活発な議論が行われた。終了後のアンケートでは、「コロナ禍前後の学生支援の変化について学ぶことができた」「日本国内ではなく、海外の状況についても話があり、参考になった」といった感想が寄せられた。

シンポジウムは期間限定のオンライン配信で視聴可能(7月31日まで)。詳しくは日本学生支援機構のシンポジウムHPを参照。